作成日　2015年10月1日
改訂日　2025年7月11日

安全データシート（SDS）

１．化学品及び会社情報

製品名	25%アンモニア水（安水）
会社名	片倉コープアグリ株式会社
住所	〒102-0073　東京都千代田区九段北１－８－１０
電話番号	03-5126-6617
ファックス番号	03-5216-6643
緊急連絡電話番号	03-5126-6617
推奨用途及び使用上の制限	工業用

２．危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

爆発物	区分に該当しない
可燃性ガス	区分に該当しない
エアゾール	区分に該当しない
酸化性ガス	区分に該当しない
高圧ガス	区分に該当しない
引火性液体	区分に該当しない
可燃性固体	区分に該当しない
自己反応性化学品	区分に該当しない
自然発火性液体	区分に該当しない
自然発火性固体	区分に該当しない
自己発熱性化学品	区分に該当しない
水反応可燃性化学品	区分に該当しない
酸化性液体	区分に該当しない
酸化性固体	区分に該当しない
有機過酸化物	区分に該当しない
金属腐食性化学品	区分　1
鈍性化爆発物	区分に該当しない

健康に対する有害性

急性毒性（経口）	区分　4
急性毒性（経皮）	分類できない
急性毒性（吸入：気体）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	区分　1
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分　1
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
生殖毒性・授乳影響	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分　1　（中枢神経系、呼吸器）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない
誤えん有害性	分類できない
その他	

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性）	区分　3
オゾン層への有害性	分類できない
その他	

GHSラベル要素

絵表示（ピクトグラム）

注意喚起語	危険
危険有害性情報	吸引すると有害 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難っを起こす恐れ 呼吸器系の障害 長期又は反復暴露による肺の障害の恐れ 水生生物に非常に強い毒性 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性
注意書き	
安全対策	適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面、保護衣を着用すること。 個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取り扱い後はよく手を洗うこと。 環境への放出を避けること。
応急措置	飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。 皮膚又は毛に付着した場合、直ちに汚染された衣類を脱がせ、皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。 吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 眼に入った場合、多量の水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。 飲み込んだ場合、皮膚に付着した場合、吸入した場合、眼に入った場合は、直ちに医師に連絡すること。 気分が悪い場合、医師の手当て、診断を受けること。
保管	施錠して保管すること。 日光を遮断し、容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
廃棄	水で希薄な水溶液とし、酸で中和させた後、多量の水で希釈して処理するか、 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理すること。
他の危険有害性	

３．組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別　化学物質

組成物質名	CAS登録番号	構造式	化審法番号	安衛法番号	含有量
水酸化アンモニウム	1336-21-6	H_5NO	1-314	別表9の39	25%
水	7732-18-5	H_2O	-	-	75%

４．応急措置

吸入した場合	ミストを吸入した場合、被害者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、安静、保温に努め、 速やかに医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	汚染された衣服、靴などを速やかに脱ぐ。製品に触れた部分を多量の水を流しながら洗浄する。 外観に変化が見られたり、刺激がある場合は直ぐに、医師の手当てを受ける。
眼に入った場合	多量の水で数分間洗浄ののち、速やかに医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	速やかに口をすすぎ、医師の手当を受ける。

５．火災時の措置

適切な消火剤	水、二酸化炭素、粉末消火剤等
使ってはならない消火剤	棒状放水
火災時の特有の危険有害性	火災時に刺激性、腐食性又は毒性のミストが発生することがある。消火作業の際には、煙やミストを 吸い込まないように適切な保護具を着用し風上から作業する。
特有の消火方法	移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。 この場合、容器に水が入らないように注意する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火活動は風上から行い、有害なガス又はミストの吸入を避けるため、呼吸保護具、化学用保護衣を着用する。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
及び緊急時措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は、適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

	漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
	風上に留まる。風下の人を退避させる。
	低地から離れる。
環境に対する注意事項	公共用水域に流出しないように留意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する
二次災害の防止策	物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。
	漏出物を回収すること。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用し、出来るだけ風上から作業する。
安全取扱い注意事項	蒸気の発散を出来るだけ抑え、適切な換気を行って、作業環境を許容濃度以下に保つように努める。
	屋内で取扱う場合、局所排気装置を設置する。
	高温物、スパーク、火炎を避け、強酸化材、ハロゲン系との接触を避ける。
	容器の転倒、落下、又は衝撃を加える等の粗暴な取扱いをしない。
接触回避	データなし
衛生対策	データなし
保管	
安全な保管条件	直射日光を避け、通風のよい冷暗所に密閉して保管する。容器は、常に４０℃以下で管理する。
	容器は、充填容器、残ガス容器にそれぞれ区分して管理する。
	保管場所は、火気厳禁とし、標識を見やすい箇所に掲示する。
安全な容器包装材料	

８．ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定なし
許容濃度	
日本産衛学会(2023年版)	25ppm（NH3として）
ＡＣＧＩＨ(2023年版)	TLV-TWA　25ppm（NH3として）
	TLV-STEL　35ppm（NH3として）
設備対策	防爆仕様の局所廃棄を設置する。手洗い場を設置する。
	空気中の濃度をばく露限界以下に保つために排気用の換気を行なうこと。
保護具	
呼吸用保護具	全顔用防毒マスク、空気呼吸器、送気マスク
手の保護具	ゴム手袋
眼、顔面の保護具	ゴーグル型保護眼鏡、飛沫防止面
皮膚及び身体の保護具	防毒衣、ゴム長靴
特別な注意事項	なし

９．物理的及び化学的性質

物理的状態	液体
色	無色透明の液体
臭い	強い刺激臭
融点・凝固点	-58℃（25%）
沸点又は初留点及び沸点範囲	39.7℃（25%）
可燃性	不燃性
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	下限：16vol%　　上限：27vol%
引火点	不燃性
自然発火点	不燃性
分解温度	100℃（熱分解性、100℃で完全にアンモニアに分解）
pH	11.6（1N)、11.1（0.1N)、10.6（0.01N)
動粘性率	27mPa・s（20℃）
溶解度	アンモニアは水に溶けやすい。エタノールに可溶。
n-オクタノール／水分配係数（log値）	log Pow = -2.20 (推定値)
蒸気圧	48kPa（25%）
密度及び／又は相対密度	0.901（25%）
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし
その他データ	データなし

１０．安定性及び反応性

反応性	水溶液は強アルカリ性で、酸と激しく反応しアルミニウム、亜鉛、銅、すず、及びこれらの合金を腐食する。
	水銀、銀イオン、塩素、よう素、及び強酸化剤と反応し、爆発の危険をもたらす。
	種々の金属を侵し水素ガスを生じる。

化学的安定性	加熱すると、有害なアンモニアガスを発生する。 容器内のアンモニア水は温度上昇に伴ってガス分圧が急激に増大するので、容器が爆発するおそれがある。
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	日光、熱
混触危険物質	多くの重金属やその塩、酸
危険有害な分解生成物	引火性/爆発性気体（水素）

１１．有害性情報

急性毒性	
経口	ラット LD50　350mg/Kg（SIDS2008）
経皮	データなし
吸入：気体	人　LCLO 5,000ppm/5H マウス LC50 4,320ppm/1H ラット LC50 2,000ppm/4H
吸入：蒸気	データなし
皮膚腐食性／刺激性	本物質は強アルカリ性の為、眼や皮膚に対して腐食性を示す。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	本物質は強アルカリ性の為、眼や皮膚に対して腐食性を示す。
呼吸器感作性	慢性的刺激性症状の原因となることがある。
皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性・授乳影響	データなし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	作業者がタンクから溢れた本物質の高濃度 (10,000 ppm) にばく露された事例では、直ちに咳、嘔吐、呼吸困難、努力呼吸が現れ、ばく露6時間後に死亡した。解剖の結果、気道の著しい炎症、気管上皮の重度の剥離が報告されている (HSDB (Access on June 2014))。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	データなし
誤えん有害性	データなし
その他	データなし

１２．環境影響情報

生態毒性	甲殻類（オオミジンコ）のLC50/48Hrは、0.66mg/Lである。 水中での挙動および生物蓄積性が不明であるが、長期的影響により水生生物に非常に強い毒性を示す。
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし
その他	データなし

１３．廃棄上の注意

残余廃棄物	アンモニア水を処理するときは、多量の水で希釈して、希塩酸、希硫酸などで中和して処理する。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。
汚染容器及び包装	

１４．輸送上の注意

国際規制	
国連番号	2672
品名（国連輸送名）	水酸化アンモニウム
国連分類（輸送における危険有害性クラス）	クラス8（腐食性物質）
容器等級	Ⅲ
国内規制	
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
陸上規制情報	毒劇法の規定に従う。
特別な安全上の対策	運搬時にイエローカードの保持が必要。 災害防止に必要な防災工具、防災資材、保護具を携帯する。 容器の破損、漏れがないことを確認し、衝撃、転倒、落下、破損のないように積込み、荷崩れ防止を確実に行う。 輸送中は直射日光を避け、容器を40℃以下に保つようにしなければならない。 輸送中の駐停車は、人ごみを避け交通量の少ない安全な場所を選ぶ。

１５．適用法令

労働安全衛生法	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物（規則別表第2）

	皮膚刺激性有害物質（第594条の2）
	施行令別表3特定化学物質等（第3類物質）
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	
毒物及び劇物取締法	劇物（法第2条）
化審法	1-314
消防法	消防活動阻害物質（政令第1条の10　届出を有する物質）
大気汚染防止法	特定物質（施行令第10条）
水質汚濁防止法	指定物質（法第2条、施行令第2条）
水道法	
下水道法	
海洋汚染防止法	Ｙ類物質（施行令別表第1　有害液体物質）
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	特別管理産業廃棄物
船舶安全法	腐食性物質（危規則第3条危険物告示別表第1）
航空法	腐食性物質（施行規則第194条）
悪臭防止法	特定悪臭物質（施行令第1条）
その他	

１６．その他の情報

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取り扱いには十分注意をしてください。
全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等を良く検討されるか、試験によって確かめられることをお薦めします。また、注意事項は、通常的な取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には、この点をご配慮ください。

本SDSはJIS Z7253:2019 に準拠して作成しています。